

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

伝統文化の継承と地域の活性化

本校校区内には、国の重要無形文化財として指定されている「壬生六斎念仏踊り」が伝承されている。内容は、地唄・長唄などのかつてのはやり歌を六斎念仏に特有の楽器で演奏できるように編曲し、舞台上で披露するというものであり、今風に言うとライブ／パフォーマンスのようなものと言える。伝承しているのは壬生六斎念仏講中という団体であり、いつも後継者不足に悩まされている現状である。そこで、小学校の部活動の一つとして「六斎キッズ」を立ち上げ、自分たちの校区に素晴らしい伝統芸能があることを知らせること、校区に誇りを持たせること、継承者の育成を図ること、地元の方々と小学生とのコミュニケーションを活性化することをねらった。技術としては六斎念仏踊りの中でも、主に四つ太鼓・獅子・祇園囃子などの演目を小学生対象に継承させたいと考えた。

以上のことにより、我が国固有の伝統文化の継承（後継者育成）と地域の活性化を図り、もって公益の増進に寄与することを目的とした。

(2) 実施内容

小学生の伝統芸能継承（壬生六斎念仏踊り）

- ・四つ太鼓 地面においた4つの太鼓を、独特のリズムで打ち鳴らす。壬生六斎念仏の基本とも言える技であり、テンツク テンツク テンテンツクツク…と子どもたちにはカタカナのついた楽譜のようなものを渡し、手取り足取り指導者が教える。慣れてくるとかなりのスピードで打てるようになり、二人で四つの太鼓を叩く技も身につけていく。初心者は必ずこの四つ太鼓の練習から始める。



- ・祇園囃子 祇園祭の「綾傘鉾」の町内と本校区は昔からの結びつきがあり、祇園祭当日には壬生六斎念仏講中の人々が「壬生六斎念仏踊り」を披露することが恒例になっている。綾傘鉾町内の方々の理解もあり、六斎キッズの子どもたちも出演させていただけることになっている。祇園囃子の演目では一人一人が「豆太鼓」といわれる小型の太鼓を手に持ち、リズムに乗って歩きながら太鼓を叩く。また、今で言う「バトントワリング」とも言える「棒振り」も演じて、棒振りと豆太鼓のコラボレーションとなる。この豆太鼓が児童の人数に比べて大きく不足しており、補助事業を願い出ている大きな一つの要因

となっている。



・獅子と蜘蛛

六斎念仏踊りの最大の見せ場である。太鼓の音に合わせてストーリーが進んでいく。内容は獅子が寝ているところに蜘蛛が登場し、獅子の眠りを妨げる。獅子はやがて目覚め、蜘蛛と対決となるが、蜘蛛の糸によって絡みとられるといった内容である。太鼓の強弱も難しいが、蜘蛛の役、獅子の役もかなり練習を積んだ高学年の児童が中心に行っている。



2. 予想される事業実施効果

近年、大人と子どもの心の関わりの重要性が叫ばれる中、地域に伝わる伝統芸能の継承や地域での発表会を通して、児童と地域の方々との間に温かくて確かな心の交流や一体感が生まれることが考えられる。また、子どもたちには自分の住む町で発表会を行うことによって、地域社会に貢献しようとする心情が育成されること、及び自分たちの手で我が国固有の伝統文化を継承し、守っていこうとする態度が育成されることも期待できる。また、この事業を展開することで後継者不足が問題となっている「壬生念仏六斎講中」の後継者を育成することができるだけでなく、資金不足によってなかなか補充できていない道具を新調することも可能となる。また、年間を通して子どもたちと大人がふれあう中で絆や一体感が生まれ、健全な心身を育成することができる。

3. 本事業により作成した印刷物

無し

4. 事業内容についての問い合わせ

団体名：京都市立朱雀第三小学校

住所：600-8812

京都府京都市下京区中堂寺北町23番地

代表者名：校長 小林 一弘（コバヤシ カズヒロ）

担当者名：同上

電話番号：075-312-3203

F A X：075-312-3343

E-mail：ka-kobayashi@edu.city.kyoto.jp

U R L：<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=103206>